

朝来市行財政改革推進委員会 第6回会議 会議録

- 開催日時 令和5年8月17日（木）13時30分～15時30分
- 開催場所 朝来市役所本庁舎 3階 庁議室
- 出席者の氏名

出席者	欠席者
恵 阪 寿 人	下 口 光 子
片 山 剛 伸	
北 見 龍 彦	
倉 田 良 樹	
玉 田 恵 美	
中 島 し の ぶ	
山 本 正 之	
事務局 企画総務部 総合政策課	
政策担当部長 掃 部 直 樹	
総合政策課長 和 田 幸 司	
課長補佐 馬 袋 真 紀	
課長補佐 太 田 晋 平	

- 傍聴者 なし

○ 会議

1 開会

第7期朝来市行財政改革推進委員会の第6回会議を開催します。

2 あいさつ

会長 こんにちは。皆さん、お集まりいただきありがとうございます。本日の審議事項は、「事務事業評価に係る外部評価について」であり、行財政改革の本丸の部分である。必要性のない事業が展開されていたり、事業の成果があがっていなかったりすれば事業をする意味がないので、評価の視点に基づいて、しっかり審議をお願いしたい。

3 審議

(1)事務事業評価に係る外部評価について

資料1「令和5年度朝来市事務事業評価【外部評価】実施の流れ」、資料2

「事務事業評価に係る外部評価実施事業一覧」、資料3「令和5年度行政マネジメント事務事業シート（R4決算）」に基づき、外部評価の進め方等について説明。

会長 外部評価の進め方について事務局から説明があったが、質問はあるか。

副会長 外部評価を進めるにあたって、2つのグループに分けた理由はなにか。評価件数に対して時間的なものなのか。今日は欠席の委員もあり、1グループ3人で審議するのは厳しいのではないか。

事務局 外部評価をするにあたり、評価件数と1件あたりに係る時間等も考え、2つのグループに分かれて審議をすることとした。

会長 今日は欠席の委員もおられ3人のグループもあるが、事務局から説明のあったグループでの審議をお願いしたい。

○外部評価の実施

2グループに分かれて、資料3「令和5年度行政マネジメント事務事業シート（R4決算）」をもとに、4事業について外部評価を行った。

外部評価内容については別紙のとおり。

○講評

会長 Aグループが担当した事業での共通事項としては、一つの事業に成果を盛り込みすぎであり、取組内容と成果の連動が分かりづらい状況にあった。Bグループが担当した事業では、住民のアクター（主体）が交錯していた。公費で事業展開する場合はターゲットを明確にし、効果的な取組にしていくことが必要である。

外部評価であるからこそ大胆な意見もあるが、市には、これらの意見を踏まえながら二次評価を進めてもらいたい。

4 その他

(1) 第5回会議会議録の確認について

8月7日付で委員各位には会議録の確認依頼を行った。委員からは変更等についての連絡がなかったため、確認いただいた内容で会議録を確定する。

(2) 次回以降の開催日程について

第7回は9月7日（木）13時30分～15時30分に開催する。内容については、引き続き事務事業にかかる外部評価を予定している。また、第8回は9月26日（火）15時から開催する。内容については、中間答申（案）の審議の後、市長への中間答申の提出、意見交換を行う予定としている。よろしく願いたい。

5 閉会

副会長 委員のみなさん、それぞれご多用の中、委員会への出席をいただきありがとうございました。残暑が続きますが、体調管理に気を付けていただきたい。次回以降の委員会への出席についても、よろしくお願ひしたい。

事務事業評価に係る外部評価

No.	事務事業名	事務事業に関する意見	その他意見	判定
1	壱岐市との交流事業	<p>○朝来市と壱岐市は友好都市連携を締結しているが、現取組は地域限定的な状況であるため、全市的な取組につなげていくことが必要である。</p> <p>○事業の周知を行うことで事業の透明性を高め、事業の必要性について市民理解を得ることが必要である。</p> <p>○全市的な取組につなげていくために、効果検証を行うべく指標を、本事業の市内における認知度に設定してはどうか（現在は、まるごと感動市への来場者数（壱岐市ブースへの訪問間わず）が成果指標となっている）。</p> <p>○本事業における効果を求めすぎていることに加え、学校教育課の予算で展開されている事業や東河地区協議会の取組もあり、事業と効果の関係性が見えづらい。例えば、文化交流事業に絞るなど、事業目的や効果を絞る方が良いのではないかな。</p> <p>○全市的な取組は市の事業で良いが、地域限定的な取組については地域主体の取組として整理が必要である。</p>	<p>○壱岐市への訪問者が限定的であることを踏まえると、毎年行き来するのではなく、1年ごとに互いに行き来する方向性も検討してはどうか。</p>	改善
2	朝来地域交流・活性化事業	<p>■朝来特産品 PR 事業について</p> <p>○小学生が体験しながら学ぶ本事業は、朝来地域の特色ある取組であることは理解するが、特産品である岩津ねぎの持続的な生産を全市的に行うためには、朝来地域限定の取組ではなく、全市的な取組にしていくことが必要である。</p> <p>○地域によっては、学校運営協議会と連携した学校事業や、地域自治協議会が主体的に取り組んでいるところなど全市的な取組方法が異なっていることもあり、公平性の面からも整理が必要である。</p>		改善
		<p>■朝来ふれあい元気まつりについて</p> <p>○地域限定的なイベントは、他地域では地域主体で展開されているなかで、朝来地域では公費の支出がある。公平性の面から、市の支出をなくし、地域主体のイベントに変えていくことが必要である。</p>		段階的廃止
		<p>■播磨町との交流事業について</p> <p>○播磨ふれあいの家が廃止されていることに加え、交流事業は高齢化により継続が困難な状況であり、交流事業への参加は地域全体によるものではなく有志による限定的な取組になっていることなどを踏まえ、両方で協議を行い、段階的廃止を検討してはどうか。</p>		段階的廃止
3	集団回収事業	<p>○ごみの再資源化と減量化の促進が目的や成果であることを踏まえ、集団回収事業助成金だけでなく、市民への啓発を強化する必要がある。</p> <p>○アンケート調査を実施するなど、集団回収の実施団体の状況を把握するとともに、市民への啓発と連動させることで、ごみの再資源化と減量化の必要性について市民意識を醸成し、地域の主体的な行動によって、持続可能な集団回収の取組になるよう進めていくことが必要である。</p>		改善
4	外出支援サービス事業	<p>○アンケート調査を実施するなど、対象者のニーズを把握し、制度を再考していくことが必要である。</p> <p>○本事業の目的は、住み慣れた地域で生活の継続を推進するためであり、生活において買い物は必要なことを踏まえると、要件緩和を検討してはどうか。</p> <p>○利用確認票の作成が手書きである等、事業がアナログで運営されているため、アプリ開発などデジタル化を進め、事業推進の効率化を図ることを検討してはどうか。</p>		改善